

正暦寺通信『瑠璃光』
発行にそえて
正暦寺副住職 大原弘照

この度、正暦寺の機関紙として正暦寺通信『瑠璃光』第一号を発行することとなりました。この『瑠璃光』(るりこう)という名の由来は、正暦寺の御本尊である薬師如来様の別名「薬師瑠璃光如来」より引用しています。

瑠璃は青い色をした宝石です。薬師如来様が青く爽やかな光で我々を包み癒してくださる、その御光を「瑠璃光」と呼びます。そして御光がやさしく照り輝く場所を薬師瑠璃光浄土(東方 浄瑠璃世界)と呼んでいるのです。この機関紙では薬師如来様が放たれる瑠璃光が一人お一人に漏れなくいきわたるように、広く皆様に正暦寺の思いや出来事をお伝え出来るものにしていきただけと考えています。

正暦寺通信『瑠璃光』の発行は年に2回を予定しています。このような正暦寺オリジナルの機関紙発行は新しい試みです。皆様には今後とも温かく見守っていただき、ご意見・ご感想などもお気軽に寄せいただければうれしく思います。

合掌

平成二十五年三月、正暦寺収蔵庫に収められている日光・月光菩薩立像(平安時代作の一本造)二体が奈良県指定文化財に認定されました。

一八六八年(慶応四年)、この二体の像は明治政府の神仏分離政策の影響で、桜井市の大御輪寺(だいごりんじ)から正暦寺に移されたものです。その時、大御輪寺から移された仏像としては聖林寺安置 十一面観音像(国宝)、法隆寺安置 地藏菩薩像(国重文)、玄奘庵安置 不動明王像(国重文)などがあります。

この大御輪寺は大三輪神社の神宮寺にあたるお寺の一つでした。ここでは元々仏様と一緒に若宮である大直禰子命(おおたかねこのみこと)をお祀りして神仏習合の形をとっていたために、大御輪寺本堂をそのまま若宮社として残すことができました。大三輪神社の若宮社へ参拝に行けば元大御輪寺の建物を実際に見ることが出来ます。

正暦寺には日光・月光菩薩立像とそれと一緒に寄附された仏具などに関する当時の大三輪神社から頂戴した証券、寄付目録などが現在も残っています。こういったことから、この二体の仏像は神仏習合の遺品として貴重であり、歴史的に重要であると判断され、奈良県指定文化財に認定されました。

正暦寺蔵
日光・月光菩薩立像
奈良県指定文化財に認定

この日光・月光菩薩立像は腕が無くなっておりなど損傷箇所が多く見られます。この二体の仏像の修理は平成二十八年を目途に完了したいと計画を進めています。



日光・月光菩薩立像

(県指定文化財としては菩薩立像で指定されています)

正暦寺と修験道

一、十二大先達と正暦寺

現在、修験道には大きく分けて二つの流れがあります。天台系統の園城寺やその子院である聖護院を本山とする本山派、真言系統の醍醐寺三寶院を本山とする当山派の二つです。これら二つの派は中世・近世を通じて、全国的に修験活動を展開してまいりました。特に真言系統の当山派は醍醐寺三寶院門跡を法頭と仰いでいましたが、実質的には各先達によって運営されてまいりました。修験道における先達とは、峰入りを重ねて道中の作法に精通し、入峰者を導く者を指しています。当山派は十二大先達を中心に全国的な組織が作られ、各々諸国の山伏を支配下において山伏の入峰修行の指導、袈裟免許の付与、宿の世話などを行ってまいりました。十二大先達は主に大和国(奈良)を中心とする有力寺院で組織されており、その中に正暦寺が含まれていました。それ

二、修験道復活を願って

真言系統の当山派において、正暦寺は十二大先達の職を預かり、修験活動の中心的な役割を果たしてきました。多くの山伏がこの正暦寺山内で修行したのであることが想像できます。しかし、明治四年(一八七一年)に明治政府の「修験道廃止令」によって全国的に修験道が廃止され修験活動は衰退しました。その後、昭和二十六年(一九五一年)に出された「新宗教法人法」によって表立っての修験活動が再びできるようになり、醍醐寺三寶院や聖護院などで修験活動が再開されたのです。

正暦寺では近年、修験道の復活を願い、講師に金峯山寺正大先達 勢堂正真(せいどう しょうしん)師を招き、行者作法や法螺貝の講習を定期的に行ってい

は、世義寺、内山永久寺、高野山、飯道寺岩本院、飯道寺梅本院、正暦寺宝蔵院、吉野桜本坊、三輪山平等寺、松尾寺、靈山寺、超昇寺の十二の寺院でした。

ます。そしてこの度、勢堂正真師監修により「修験道行者勤行次第」を作成しました。それに伴って定例講習として「修験の会」を発足しました。また、年に数回法螺貝の特別講習として、醍醐派歎喜講々元 一等法螺師である益廣弘道(かぎひろこうどう)師を招いて法螺貝の研究を重ねています。

かつて山岳信仰の拠点の一つであった正暦寺。この菩提の山で再び山伏が闊歩する姿が見られる日も遠くないかもしれせん。



修験道行者勤行次第

ピックアップ
六月八日 お経を読む会
講師 タニヨシ先生

六月八日のお経を読む会ではタニヨシ先生による講義が行われました。タニヨシ先生はタニの僧侶で、龍谷大学大学院にて博士号を取得され、現在大阪タンマガイイ寺院の住職として活動されています。またその傍ら、龍谷大学非常勤講師としても教鞭を振るっておられます。

タニヨシ先生には昨年お釈迦様の最初のお説法をパリー語で書いた『転法輪経』の説明を詳しく聞いて、実際にみんなまでそのお経を唱えました。今年もタニヨシ先生が朝、夕の勤行で唱えているパリー語のお経を、テキストを使用して読んでいきます。タニヨシ先生のユーモア溢れる話しぶりにあっという間に時間が過ぎてゆきました。次回は七月八日のお経を読む会にて講義いただく予定です。

